

政策目標 1 3 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進

●概要

人づくりなどに資する国際交流・協力の推進を通じて豊かな国際社会の構築の一翼を担う。このため、2施策によってその目的の達成を目指す。

●主管課（課長名）

大臣官房国際課（池原 充洋）

●評価

豊かな国際社会の構築に資するための国際交流・協力の推進に向けた取組は、想定どおり達成された。

●22年度の施策状況

○国際交流の推進（施策目標13-1）

モニタリングとしたため、モニタリング結果を参照。

○国際協力の推進（施策目標13-2）

国際協力の推進を図るため、我が国の大学等における知的リソースを整理・活用して国際協力に関する情報提供等の知的貢献を行った。また、国際機関が実施する事業に抛出等を行い、国際的な取組にも貢献した。

前者の「国際協カイニシアティブ」事業については、大学の有する「知」をまとめた成果物の蓄積が進み、同成果を公開したデジタルアーカイブである「国際教育協カアーカイブス」には、世界各地から月25,000～30,000アクセスがあるなど、一定の成果が得られた。しかし、行政事業レビュー「公開プロセス」の結果を受けて、平成22年度限りで事業を廃止した。今後は、同レビューでの、相手国の把握が不十分などの指摘も踏まえ、文部科学省における国際協力の推進方針について、検討していくことが課題である。

また、国際機関及び関係機関等を通じた国際的な取組への貢献については、修士課程の教育を実施する人材育成プログラムが開設されるなど、十分な進捗が得られた。さらにユネスコの事業については、提案された事業を概ね計画通りに実施していると報告を受けており、活動に対する評価も高いことから、計画どおりに実施されたものと判断できる。

●23年度以降の政策への反映方針

○国際協力の推進（施策目標13-2）

- 文部科学省行政事業レビューでの「外交戦略上における位置づけ、相手国要請の的確な把握について不明確・不十分な点が多い」等の指摘を踏まえ、平成23年度は、個別大学による個別事業レベルでの対応に留まらず、政府として対応していくべき事項について検討する「国際協力推進会議」を設置した。同時に、戦略的見地から東南アジア諸国との協力関係の重要性に着目し、当該地域との連携強化を目的とした事業を実施している。平成24年度は、「国際協カイニシアティブ」を通じて集積した知見や構築した大学間ネットワークや、青年海外協カ隊「現職教員特別参加制度」などこれまでに築いた資産も有効に活用しながら、これらの事業を引き続き実施することで国際協カ活動の一層の促進を図る。
- これまでのユネスコ活動の普及・促進への取組を更に推進していくことに加え、近年、「ユネスコ記憶遺産事業」への国民の関心の高まりに対応するための国内体制の整備、国連DESDの計画期間の終了年に向けた取組の強化及び次期計画に向けた検討等、我が国におけるユネスコ活動を更に強化することが喫緊の課題となっていることから、平成24年度の定員要求（ユネスコ振興係長1名、ユネスコ振興推進係員1名）を行っている。また、今後も引き続きPISAをはじめとするOECD事業に参加し、その成果を教育政策に役立てていくとともに、国連大学と日本の大学との連携を図り、大学院プログラムをはじめとする国連大学における国際的な人材育成の支援を継続する。